佳作

気楽に生きていこうじゃないか

秋田県能代市立能代東中学校
１年　藤澤　らん

私は、小さい頃から体が弱かった。季節の変わり目に風邪を引くのは当たり前。片頭痛もち。そして腹痛が起きやすい。それは、小学校入学前から今まで、ずっと続いてきたことだった。

そんな私は、小学校に入学すると「保健室」に頻繁に行くようになった。特に、小学校生活後半の３年間は、ひどい腹痛に悩まされた。そのたびに、保健室で休ませてもらっていた。そのような経験から、私は、保健室に行くと必ず安心するような笑顔で迎えてくださる保健室の先生にいつも憧れていた。

小学校生活も残り１カ月となった今年の２月後半。学校では、卒業式の全校練習が始まっていた。私は、卒業式練習をきっかけに、体調不良以外の理由で保健室に行くなんて全く想像していなかった。

ある日の２時間目のことだった。私は、いつもどおり全校練習で卒業式の歌を歌っていた。歌い終わって、ミスなく終わったことにほっと安堵していると、私の斜め前の方から「バタッ」と大きな音が聞こえた。嫌な予感がしたまま音が聞こえた方を見てみると、いつも明るく私に接してくれていた友達が倒れていた。一瞬、何が起きたか分からなかったが、貧血で倒れた、ということは理解できた。

その後、私は自分の中で、何かおかしい感じがした。相当驚いたのだろう。知らない間に涙が出ていた。自分の感情をコントロールできなくなっていたのだ。

それは、次の日以降も続き、担任の先生と相談して保健室に行くことにした。保健室の先生はいつもの笑顔で「どうしたの？」と優しく迎えてくださった。

しばらく私は口を開くことができなかったが、先生はずっと待ってくださった。だんだんと落ち着きを取り戻し、やっと話せる状態になった私は、昨日あったことを話した。話し終わるまで静かに真剣な表情で聞いてくださった先生は、私を慰めると同時にこんな言葉をかけてくれた。

「らんさん、他にも何か、不安なことがあるんじゃない？」

私は、心の中にあった不安、そして悩みを全部打ち明けた。完全にスッキリしたわけではなかったが、だいぶ心が軽くなっていた。

その後は「好きなアーティストは誰？」とか「好きなアニメはあるの？」など、何気ない会話で盛り上がった。１時間半ほど先生と話した私は、表情がい

つもどおりに戻っていた。教室に帰ってからも、後の授業を普通に受けることができた。今でも、あのときの保健室の先生には心から感謝している。

私の夢は、養護教諭になることだ。生徒の健康状態はもちろん、子どもたちの心にも自分のことのように寄り添える、そんな養護教諭になりたい。

しかし、夢はささいなことをきっかけに、変わるものだ。今後、何が起こるか分からないように、これからずっと養護教諭だけを目指せるか、と聞かれたら、私はすぐに返事ができないだろう。

でも、一つ確かなこと。それは、苦しんでいる人がいたら手を差し伸べ、話を聞き、相手の負担を少しでも和らげる。このことが、考えなくてもできるような人に私はなるということだ。

生きづらい社会の中で、私たちは、自分の人生を生きようと毎日必死だ。その中でも、息抜きの場をつくりたい。小学校の時、こういう経験があって、どんな人と出会って、何を学んで、何をしたいと思ったか。このことを心の中に置いて、これからも生きていこうと思う。そして、未来のいつか、ふと生きづらかった自分を思い出した時、言ってあげたい。「気楽に、充実した毎日を過ごせています」と……。